

投与プロトコール 初回2週4週、以後4週間隔 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
①	オレンシア点滴静注用 生理食塩液	mg 100mL	Day1	30分間	体重60kg未満 500mg 60~100kg 750mg
後フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	全開	

<使用上の注意点>

【オレンシア】

- ◆感染リスク注意:免疫系に影響を及ぼす薬剤であり、感染症及び悪性腫瘍に対する宿主の感染防御機構やワクチン接種に対する応答に影響を及ぼす可能性があるため注意する。  
敗血症や肺炎を含む重篤な感染症が報告されている。感染症の再発を繰り返す患者、易感染性の状態にある患者、或いは慢性、潜在性の感染又は局所感染がある患者に対して使用を考慮する場合、感染症の発現や増悪に注意すること。本剤投与中は十分な観察を行い新たな感染症の発現に注意すること。結核に関する問診及び胸部レントゲン検査に加え、インターフェロンγ遊離試験またはツベルクリン反応検査を行い、適宜胸部CT検査などを行うことにより、結核感染の有無を確認すること。  
本剤投与に先立って肝炎ウイルス感染の有無を確認すること。
- ◆予防接種:本剤投与中及び投与中止後3か月間は、生ワクチン接種により感染する潜在的风险があるので、生ワクチン接種を行わないこと。また、本剤を含む免疫系に影響を及ぼす薬剤は、予防接種の効果を低下させる。
- ◆過敏症状注意:ショック、アナフィラキシー様症状及び低血圧、蕁麻疹、呼吸困難などの重篤な過敏症があらわれることがあるので、観察を十分にを行い、このような反応が見られた場合には速やかに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- ◆間質性肺炎:間質性肺炎があらわれることがあるので、発熱、咳嗽、呼吸困難などの呼吸症状に十分注意し、異常が認められた場合には、速やかに必要な検査を実施し、本剤の投与を中止するとともに適切な処置を行うこと。  
間質性肺炎の既往歴のある患者には、定期的に問診を行うなど、注意すること。

<投与時の注意点>

【オレンシア】

- ◆全量を30分かけて点滴静注する。
- ◆投与サイクルは、初回投与後、2週、4週に投与し、以後4週間の間隔で投与すること。
- ◆無菌・バイロジェンフリーで蛋白結合性の低い0.2~1.2ミクロンのインラインフィルターを用いて投与すること。
- ◆独立したラインより投与するものとし、他の注射剤・輸液等と混合しないこと。

<調製時の注意点>

【オレンシア】

- ◆本剤に添付されたシリコーン油を塗布していない専用シリンジ及び18~21Gの注射針を用いて1バイアル当たり10mlの注射用水(生理食塩液も可能)で溶解する。溶解時はバイアルの壁面に沿って静かに注入する。  
溶解後速やかに総液量100mLとなるように生理食塩液で希釈する。  
また、速やかに使用する。(希釈後やむをえず保存する場合は、2~25℃で保存し、24時間以内に使用すること)